

The image is a vertical composition. The upper two-thirds show a dark night sky filled with stars and the Milky Way galaxy, which appears as a bright, hazy band of light stretching from the top center towards the bottom. Several bright, white streaks, likely meteors or shooting stars, are scattered across the sky. The lower third of the image shows a landscape of rolling hills and mountains under a dark, cloudy sky. The hills are illuminated by a low light source, possibly the moon, creating a mix of dark and light brown tones. A winding road is visible on the left side of the hills. The overall mood is serene and awe-inspiring, combining the vastness of the universe with the beauty of the natural world.

星を撮るためのTIPS集

【プロフィール】

© 櫻庭将太

福岡県出身。

2018年に星を撮りたいと思いたちカメラを購入。

阿蘇で見た景色に魅了され本格的に風景写真の撮影を開始。

その後、友人に誘われ参加し撮影会イベントにて被写体がいる撮影の楽しさも経験し、ポートレートやコスプレ撮影も行うようになった。

現在は風景撮影からファミリー向けの撮影など、幅広く活動している。

作風は風景を生かした撮影や雰囲気・ストーリーを重視した撮影が多い。

【フォトコンテスト受賞歴】

2022年 KANIフォトコンテスト Phottix賞

2023年 KANIフォトコンテスト 銀賞

2024年 KANIフォトコンテスト Tamron賞

2024年 KANIフィルターアンバサダー就任

【サイト・SNS】

・ SNS

X : https://x.com/BSK_photo

[Instagram](#) :

・ サイト

<https://cutout-moment.com/>

目次

初めに	4
星空の魅力	5
撮影に必要なもの	6
必須道具	6
あると便利な道具	12
撮影時期・天気	16
月齢について	16
月齢早見表	18
天気について	19
季節ごとの星空	22
撮影準備	27
光害について	27
月と撮影対象の確認	29
撮影場所とロケハン	29

初めに



満天の星空を見上げたことがありますか？

夜空には無数の星が瞬き、天の川のように広がる銀河が静かに広がっています。その光景をただ見上げるだけでも、言葉にできない感動を覚えることでしょう。けれど、カメラを通すとその輝きはさらに深まり、肉眼では見えない世界も姿を現します。星空の撮影は、カメラと三脚、そしてほんの少しの工夫があれば誰にでもできます。この本は、まだ星を撮ったことのない方に向けた、最初の一歩を応援する入門書です。

「最初の一枚を撮り、現像して仕上げる」

その体験があなたの大切な思い出になることを願っています。

ばーさく

1.

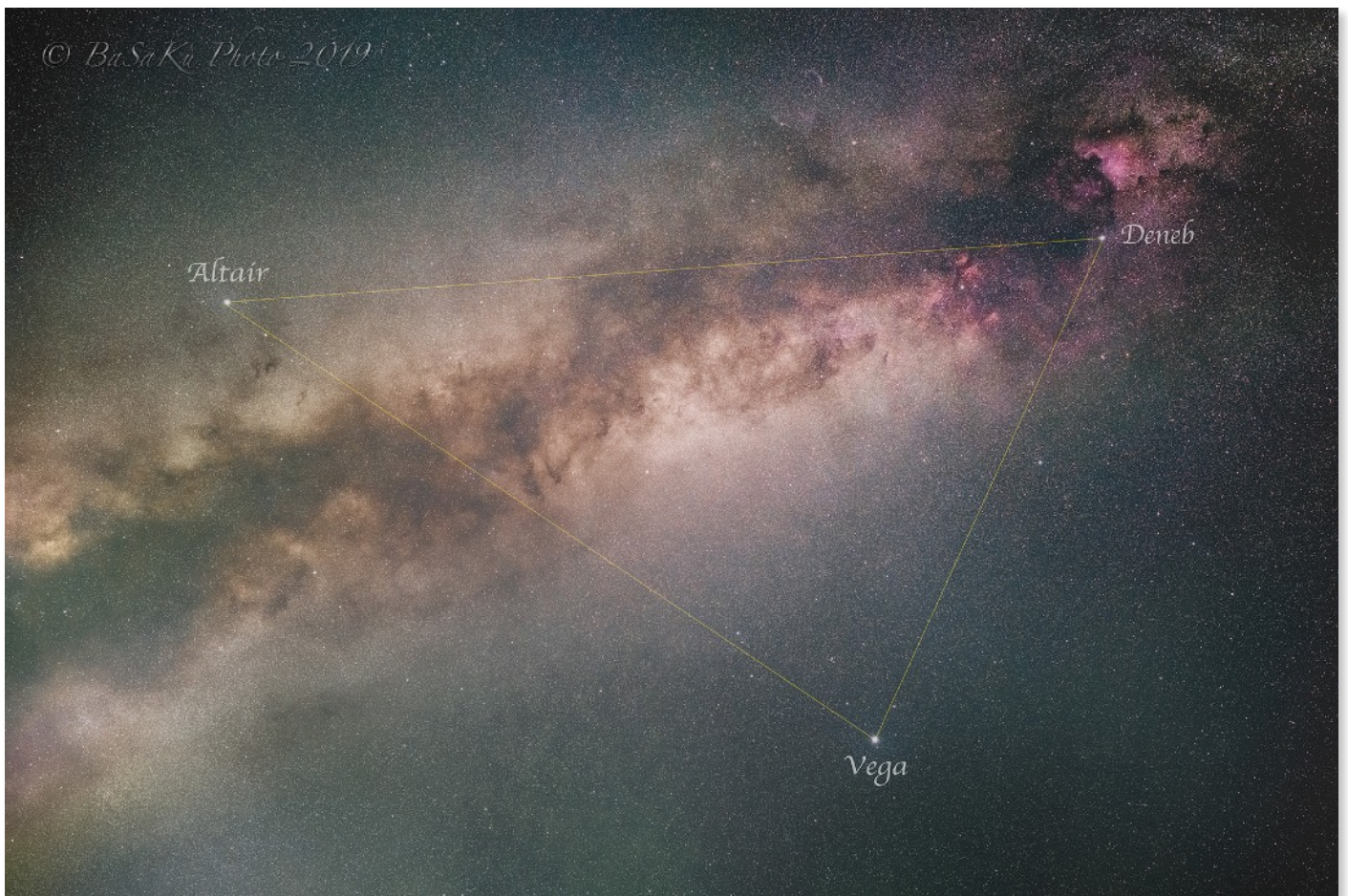
星空の魅力

星

空を撮る理由は人によって様々です。

静かな夜に広がる星空を見上げると、日常の喧騒から離れた、

特別な時間を過ごすことができます。



■ 天の川と夏の大三角

カメラを通せば、肉眼では見えない淡い星の輝きや、天の川の細かな模様までも写し出す事ができます。そんな目で見えない世界を切り取れることが、星空撮影の大きな魅力の一つではないかと思います。

また、夜に自然の中で撮影することは、風や草木の音、夜空の賑やかさを全身で感じ取ることができます。

忙しい日常から少し離れて、自然の中でリフレッシュできるという時間もこの趣味ならではの贅沢です。

2.

撮影に必要なもの

星

空を撮るために必要なものは意外と少ないんです。

ここでは、最初の一步に必要なものとあると便利なものを紹介します。

必要なものさえ揃えば、今夜からでも星空撮影を始められますよ！

必須道具

1. 撮影用のカメラ

星空撮影にはセンサーサイズがAPS-C以上のカメラがおすすめです。フルサイズや中判カメラであれば、よりノイズが少ない綺麗な星空を撮影できます。

もちろん、APS-Cの入門機種でも十分に楽しめます。

まずは手軽な機種で始め、慣れてきたら上位機種へステップアップするのも良いでしょう。

よく「Canon・Nikon・SONYのどれが一番良いの？」と聞かれますが、**予算を度外視すれば、2025年時点ではSONYのα7RVが最高だ**と思います。

理由を簡単に整理したものを載せておきます。

• レンズの選択肢

レンズの豊富さでは **SONY > Nikon > Canon** の順です。

特に星景写真向けの広角レンズはSONYが圧倒的で、選びやすさという点では大きな強みがあります。

• 撮影アシスト機能

星撮影では暗い夜空でのピント合わせが重要になります。

SONY機に搭載されている「**ブライトモニタリング**」機能は、ピント拡大時にモニターを明るく表示してくれる便利な機能で、暗い星でもピントを合わせやすくなります。特にα7RVでは、拡大状態でもこの機能が維持されるようになり、かなりピント合わせが楽になりました。

なお、Nikonの最新モデルにも同様の機能が搭載されています。

• 純粋なRAWデータの取得

調べてないので他のメーカーに関しては不明ですが、SONY α7RVから撮影時に余計な画像処理を行わない「純粋なRAWデータ」を取得できるようになりました。これは高度な後処理を行いたい人にとって大きなメリットになります。

複雑な後処理に絡んでくるためここでは説明を割愛しますが、興味のある方は「**スターイーター**」というキーワードで調べてみてください。

上記の3点より、2025年現在ではSONY α7RVが星景写真に最も適したカメラと考えています。もちろん、どのメーカーでも十分に美しい写真は撮れますが、**レンズの豊富さや撮影アシスト機能の使いやすさ**という点で、現状はSONYが優位です。

現代のカメラであれば、性能が良いものも多いため入門モデルでも撮ることができます。迷ったらとりあえずSONY、Nikon、Canonのどれかを買っておけばなんとかなると思います。

また周囲のカメラマンにこのメーカーを使ってる人が多いから、といった理由でメーカーを選んでも大丈夫です！

むしろ周りに同じメーカーのカメラマンがいると、レンズを借りたり、いざという時にバッテリーを借りたりなどで助かることも...！！

2. レンズ

星空撮影には、**焦点距離が短く、F値がなるべく小さいレンズ**を使います。

• 焦点距離

焦点距離が長くなるほど星を点として写す時間が短くなるため、**フルサイズ換算で35mm程度の焦点距離まで**が目安となります。14~24mm前後なら広い範囲の夜空を写しやすく、風景と星空を一緒に切り取る星景写真に最適です。

センサーサイズがAPS-Cの場合は**1.5倍（Canonは約1.6倍）換算**になるため、10~18mm程度のレンズを選ぶと、フルサイズで14~24mmに近い画角で撮影できます。

• F値

F値はF2.8以下が理想です。F4のレンズでも撮れないわけではありませんが、取り込める光が少ないため、写真が暗くなりやすいのが難点です。

ただし、APS-Cカメラでは露光時間を長めに設定できるので、F4でも撮影できる場合があります。（理由は撮影の章で解説）

・ レンズの性能

明るいレンズを選ぶときに注意したいのは、「明るささえあれば良い」というわけではないことです。重要なのは、**開放から安定した描写が得られるかどうか**です。

明るいF1.4やF1.8のレンズでも、開放付近で収差が大きく出る場合は、F2.8程度まで絞らないときれいに写らないことがあります。

星空撮影の場合に特に気をつけたいのは、**コマ収差とフリッジ**です。

・ コマ収差

コマ収差は、画像の端に写る星が変形して見える収差です。

理想的なレンズであれば、星は画像端でも点として写りますが、実際はコマ収差によって星が**翼を広げたような形**に変形してしまいます。ひどい場合には点ではなく、かなり歪な形状になってしまうこともあります。

コマ収差は後処理ではほとんど補正できません。

基本的には絞ってF値を大きくするか、収差の少ないレンズに替える必要があります。

私もF1.4の明るいレンズを使っていますが、撮影時にはF1.8～F2.8程度まで絞って、コマ収差を抑えながら撮影しています。

・ フリッジ

フリッジとは、物体の輪郭に出る色のにじみのことを指し、星空撮影の場合には、星の輪郭に見られます。

パープルフリッジやグリーンフリッジがよく見られ、補正をしないと星の輪郭に本来とは違う色が乗ってしまい、目立つ仕上がりになってしまいます。

フリッジは少し絞ることで軽減でき、後処理でもある程度補正可能です。

ただ、ひどい場合は完全には取り切れないため、レンズ選びの際はあらかじめチェックしておくことと安心です。（Sony 24mm GMは特にパープルフリッジが酷く、価格が高い = 星空撮影に使えるとは限らないことを実感させられましたね...）

逆に軽微なものであれば、無理に気にせず撮影や現像で楽しむくらいの気持ちで構いません。

星空撮影ではレンズのF値とレンズの描写性能が仕上がりを大きく左右します。
本体かレンズどちらかに予算を割くなら、レンズを重視した方が良いかもしれません。

■ 焦点距離

- ・ フルサイズ換算で **14～35mm程度まで**がおすすめ
- ・ APS-Cなら **10～18mm程度**で、フルサイズと同じ画角が得られる
- ・ 星景写真の定番は14～24mm

■ F値

- ・ F2.8以下が理想
- ・ **F4でも撮影可能**だが、写真は暗くなりやすい
- ・ APS-Cは露光時間を長めに取れるので多少カバーできる

■ 描写性能

- ・ 「明るい＝良い」ではない
- ・ 開放から安定した描写が得られるレンズを選ぶ

■ 注意したい収差

- ・ **コマ収差**：端の星が歪む。後処理ではほぼ補正不可
- ・ **フリッジ**：星の輪郭が色づく。軽度なら後処理で対応可能

■ おまけ：単焦点とズームの違い

星空撮影では、単焦点レンズとズームレンズのどちらを選ぶかで迷うことがあります。

一般的に**単焦点レンズ**は周辺までシャープに写りやすく、星を点としてきれいに描写できる傾向があります。一方で、**ズームレンズ**は画角を柔軟に変えられる使いやすさが魅力です。

ただ、初心者のうちはこの違いをあまり気にする必要はありません。

焦点距離やF値、そして開放から安定した描写性能を重視すれば、単焦点でもズームでも十分に美しい星空を撮影できます。

3. 三脚と雲台

星空撮影では、**しっかりと安定した三脚と構図を調整しやすい雲台**が欠かせません。ここでは三脚と雲台について押さえておきたいポイントを説明します。

• 三脚の高さ

三脚は、**目線くらいの高さ**まで伸ばせるものを選ぶと扱いやすいです。高さに余裕があると構図を決めやすく、無理な姿勢での撮影も避けられます。また、**ローアングルの構図**をメインに狙う場合は低く構えられるタイプが便利です。センターポールを伸ばしたり追加することで高さを調整できる三脚もあるため、最初の1本は汎用性の高い三脚を選ぶと良いでしょう。

• 雲台

三脚の雲台は、カメラの角度や構図を調整する重要な部分です。初心者向けにすすめるのは、以下の2種類です。

• **自由雲台（ボール雲台）**

ボールを支点に動かすシンプルな構造で、**軽量で直感的に操作できる**のが特徴です。動きがスムーズなので、素早く構図を決めたい場合に向いています。

• **3ウェイ雲台**

縦・横・回転方向を**それぞれ個別に調整できる**タイプです。

角度を一方向ずつじっくり合わせられるため、精密な構図を決めたいときに便利です。ただし、動作がゆっくりで重さもあるため、機動力は自由雲台より劣ります。

また、もう少し細かく構図を調整したいときは**ギア雲台**という選択肢もあります。

• ギア雲台（3ウェイ雲台の精密版）

ギア雲台は3ウェイ雲台の操作性をそのままに、**ギアで微調整できる機能を加えたタイプ**です。構図を細かく追い込むことができ、一度決めた位置がズレにくいのが大きなメリットです。特に、**天の川を構図の中で正確に合わせたい星景写真**では非常に便利です。

重量や価格はやや高めですが、構図をしっかり追い込みたい人にはおすすめです。

星空を撮影するために三脚は必須ですが、質を追うのは後回しでも大丈夫です。まずは安いもので大丈夫なので三脚と雲台を揃えましょう。

■ 三脚

- 汎用性を求めるなら目線ぐらいの高さのものが良い
- ローアングルメインなら短い三脚の方が良い

■ 雲台

- 最初はなんでも良い
- 自由雲台は大まかに合わせるのが得意
- 3ウェイ雲台は3方向を個別に調整できる
- 高いけどギア雲台は自由雲台と3ウェイ雲台の良いとこどり

■ おまけ：三脚の素材について

三脚の素材には、**カーボン**と**アルミ**の2種類があります。

- **カーボン**：軽くて振動が収まりやすいが高価
- **アルミ**：重いが安価

初心者はまずアルミ製でも十分です。持ち運びの頻度が多くなったり、使い慣れてきたらカーボンへのステップアップを検討すると良いでしょう。

あると便利な道具

星空撮影は、最低限の機材だけでも始められますが、**ちょっとした便利道具**があると撮影がぐっと快適になります。ここでは、普段撮影で使用している物の中で、特におすすめのものを紹介します。

・ レリーズ

シャッターを切る際の振動でブレが生じるため、**極力用意した方がいい道具**です。**カメラごとに規格が異なる**ので、使っているメーカーに合ったものを選びましょう。

最近は無線タイプも増えています。普段私が使っているSONYのリモートコマンドーは便利ですが、**30秒以上の長秒撮影では露光時間を正確にコントロールできない**など、注意が必要な面もあります。

なお、レリーズがない場合は、**カメラのセルフタイマー機能やインターバル撮影機能**を使うことで、ブレをある程度防ぐことができます。

・ ヘッドライト

普通のライトより両手を使うことができるヘッドライトの方が便利です。

ヘッドライトは**白色ライトがおすすめ**です。暗順応のためには赤色ライトが理想ですが、赤い光が写真に写り込むと色補正が難しく写真への影響が大きいです。白色ライトなら、**現像時に明るさを下げるだけで対応しやすい**です。

・ ヒーター

結露防止用で**季節を問わず活躍**します。夏でも夜露で湿度が上がリ、レンズが曇ることがありますので意外と使用頻度も高いです。

なお、冬場はヒーターなしだとほぼレンズが凍るため、**必携道具に昇格**します。

・ 予備バッテリー（またはモバイルバッテリー）

長秒撮影が基本なので、**想像以上にバッテリーの消耗が早い**です。予備バッテリーを複数持っておくか、ミラーレス機ならモバイルバッテリーで給電しながら撮影すると安心です。

・ レンズフィルター

レンズフィルターを使うことでより印象的な星空写真を撮ることができるようになります。星空撮影では、特に**光害カットフィルター**と**ソフトフィルター**の2種類が便利です。

・ **光害カットフィルター**

一部の人工光源を除外するためのフィルターです。特にナトリウムランプのようなオレンジ

色の街灯には効果的です。ただし、最近増えている**白色LEDには効果がありません**。

光害カットフィルターは**星空の色味を整えたり、見えにくい色を残しやすくする効果もある**ので、なるべく付けた状態で撮影するのがおすすめです。

・ ソフトフィルター

星の輪郭を滲ませて、**印象的で雰囲気のある写り**にするフィルターです。輪郭がにじむことで、コマ収差や長秒撮影による星の流れをごまかせるメリットもあります。また、星の色が分かりやすくなる効果もあります。一方で、天の川を撮る場合は**輪郭がぼやけてしまい、立体感が失われやすい**ため注意が必要です。

最近では地上にはソフト効果をかけず、**星空だけを柔らかく描写できる角型フィルター**も登場しています。ただし、角型フィルターを使うにはホルダーなど周辺機材を揃える必要があるため、**初期投資がかかります**。

ステップアップしたいときに導入を検討すると、**光害カットとソフト効果を組み合わせて地上を暗く抑えつつ星空を強調する**といった高度な表現も可能になります。

・ ストーンバッグ

三脚の安定性を向上させるため取り付ける**ストーンバッグ**も便利な道具の一つです。

重りを載せて安定性を高める目的で使われますが、実際には**ちょっとした荷物（レンズキャップやヒーター用バッテリー、レンズフィルターなど）を置くスペース**として役立ちます。必須というわけではありませんが、価格も手頃で邪魔にならないので、1つ持っておくと良いと思います。

・ ブロアー

フィルターやレンズ表面のホコリや湿気を軽く飛ばす程度に使うのがおすすめです。なお、**センサーに対して野外環境下で使うことはあまりおすすめできません**。ブロアーを使うことで、逆にごみや湿気が付着する場合があります。

・ 防寒具

冬はもちろん、夏でも夜は冷え込むことがあります。厚手の上着、ネックウォーマー、手袋など、自分の体質に合わせた装備を準備しておきましょう。

・ マット

撮影中に地面に座ったり、荷物を置くときに便利です。特に夜露で地面が濡れていることが多いので、一枚あると安心です。

ここで紹介した道具はあったら便利というものなのでも大丈夫です。

■ ほぼ必携道具

- ・ ヒーター
- ・ レリーズ

■ 買うなら早めに揃えたい道具

- ・ 予備バッテリー
- ・ ヘッドライト

■ のちのち揃えたい道具

- ・ レンズフィルター

■ おまけ：ヘッドライトの色問題

ヘッドライトの光色には、**赤色と白色**の2種類があります。

赤色ライトは暗順応（暗闇に目を慣らすこと）を保ちやすく、天体観測ではよく使われています。これは暗順応の状態は強い白色光を見てしまうとリセットされてしまうためです。

ただし、**星景写真では赤色ライトが写り込むことで地上の景色の色がおかしくなってしまうリスクがある**のが難点です。前景が赤く染まってしまうと、後処理で補正するのが非常に難しくなります。白色ライトであれば、写真に写り込んだ場合でも後処理で明るさを落とすだけでリカバリ可能です。

そのため、観察重視なら赤色ライト、撮影重視なら白色ライトという使い分けがおすすめです。

■ おまけ：赤道儀について

星をよりシャープに写したい、天の川の細かい輪郭までしっかり撮影したなどといった場合には**赤道儀**という機材が役立ちます。

赤道儀は地球の自転に合わせてカメラを動かし、星の動きを追尾する装置です。これを使えば、**30秒以上の露光**でも星を点像として捉えられるため、淡い天の川や星雲も鮮明に写せます。

使う際には、極軸合わせという準備が必要です。これは、赤道儀の回転軸を北極星の方向（地球の自転軸の延長線）に合わせる作業のことです。基本的な手順は以下の通りです。

1. 三脚を水平に設置する
2. 北極星が見える方向に赤道儀を向ける
3. 極軸望遠鏡やスマホアプリを使い、北極星をガイドの指示通りに合わせる

最初は少し手間取りますが、慣れてくると数分で調整できるようになります。

ただし、赤道儀は重さや準備時間も増えるため、**撮影に慣れてから検討するのがおすすめです**。

3.

撮影時期・天気

星

空を撮るには、いくつか自然の条件を意識する必要があります。

この章では、月齢や天気、季節ごとの星空について解説します。

撮影に出かけるための条件となるので、しっかり押さえておきましょう！



■ 霧に飲まれたときの星空

月齢について

星空を撮影するときに、まず意識したいことの1つが月の満ち欠け（月齢）です。月の明るさは星空全体に広がるため、星の見え方や写真の写りに大きな影響を与えます。

月が満月に近づくほど空が明るくなり、**暗い星や天の川が見えにくくなる**だけでなく、写真に写る星の数も大きく減ってしまいます。

これは、月の光が空全体に広がることで暗い星が月明かりにかき消されてしまうためです。さらに、空が明るくなることで露光時間を長く取れず、淡い天の川や暗い星雲を写せなくなります。また、湿度が高い日には月明かりが散乱して、空が白っぽくかすんで見えることもあります。

逆に、月明かりがなくなる新月では空が暗く、淡い星雲や天の川までくっきりと写すことができます。

月は約29.5日の周期で、**新月 → 上弦 → 満月 → 下弦 → 新月**と、見かけ上の形を変えていきます。この周期の中で月明かりの強さも変化し、新月期に近いほど空が暗く、満月期に近いほど星空全体が明るくなります。

そのため、暗い星や天の川をしっかり写したい場合は新月前後が最適で、満月期は星空撮影には不向きとなります。一方で、星の軌跡を撮影するスタートレイル（星グル）写真の場合は暗い星が目立たなくなり地上の明るさも確保できる満月付近の方が撮影しやすくなります。

なお、月の周期はほぼ一定ですが、新月や満月の日付は年ごとに少しずつずれます。そのため、「〇日が新月だから…」という覚え方は避け、天文アプリやカレンダーでその年の正確な月齢や月の出入り時間を確認することが大切です。

私は「国立天文台の暦計算室のこよみ」や「月齢カレンダー」などのウェブサイト、「PhotoPills」というアプリなどで確認しています。

月齢早見表

月齢と撮影に適した時間帯を月齢早見表にまとめました。

基本的には、**新月から上弦の月の手前まで**、そして**下弦の月から新月までの期間**が星空撮影に適した期間となります。この時期は月が見えない時間が長く、撮影時間をしっかり確保することができます。

一方で、**上弦から満月、そして下弦にかけて**は月が見えている時間の方が長く、撮影時間があまり確保できないため星空撮影には適していません。

ただし、この明るさを逆に利用して、星の軌跡を描くスタートレイル（星グル）写真を撮影することは可能です。

月齢	月の形状	月の明るさ	撮影可能な時間帯
0	見えない	真っ暗	一晩中
1～4 25～29	三日月	ほぼ気にならない	・日没1～2時間後から日出まで ・日没後から日出1～2時間前まで
5～8 21～24	上弦、下弦の月付近	明るい	・日没3～4時間後から日出まで ・日没から日出3～4時間前まで
9～14 16～20	半月から満月の間	かなり明るい	・日出1～2時間前から日出まで ・日没から日没1～2時間後まで
15	満月	非常に明るい	なし

■ 月齢早見表

星空撮影に出かける際は、この表を参考にして日程や時間帯を調整してみてください。

星空をしっかり写したいなら**新月前後**、星グルを撮りたいなら**月が明るい時期**を選ぶなど、撮影内容に合わせて月齢を意識することが大切です。

天気について

星空撮影は「晴れ」であれば撮影できそうに思えますが、実際には「**快晴**」が理想です。気象庁では「晴れ」と「快晴」を以下のように定義しています。

- ・ **快晴**

全雲量が1以下の状態

- ・ **晴れ**

全雲量が2以上8以下の状態

雲量というのは空全体に対してどれくらい雲の量があるかを示す値になります。

つまり、定義上では「晴れ」は空の8割が曇っていても晴れとして扱われますが、この状態では星空を撮ることはできません。

そのため、星空撮影を行う場合は「快晴」であるかどうかを確認します。「晴れ」の場合でも2割ぐらいなら多少もこもこした雲がある程度の可能性もあり、逆にアクセントになって面白い写真が撮れることもあります。



■ 様々な環境下での星空

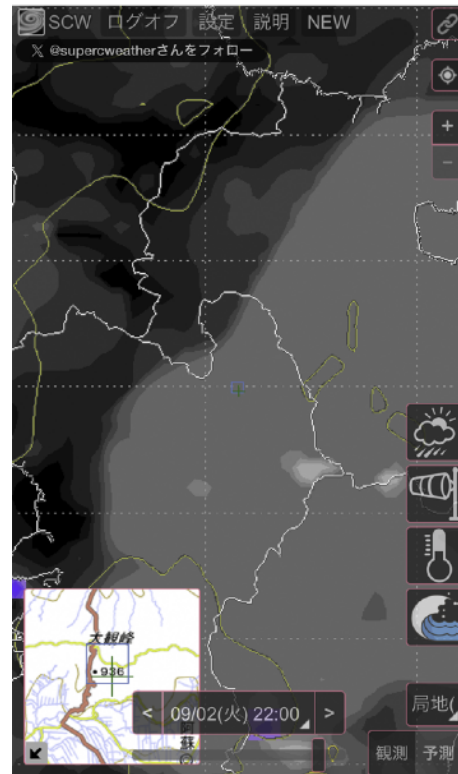
星空をしっかり撮影したい場合は、空の透明度が高いことも重要です。

薄曇りや大気中のPM2.5、黄砂、花粉などの微粒子が多い日は、空全体が白っぽくかすんでしまい、星が見えづらくなります。また、湿度が高いと空気がうっすら霞んだようになり撮影には不向きです。湿度が高いと結露も発生しやすくなるため、天気と合わせてチェックしておくといいでしょう。湿度はヒーターを準備する目安にもなります。

■ 天気予測

星空撮影は「晴れ」であれば撮影でき天気の確認には**複数のアプリを組み合わせる**のがおすすめです。

私は「**Windy**」と「**SCW**」の2つを使って確認していますので、この2つについて紹介します。



■ Windy (左) とSCW (右) の表示

• Windy

風や波、気象情報を地図上で視覚的に分かりやすく表示する高機能な天気予報アプリ・サービス。詳細な天気予報やライブ風マップなどを提供してくれます。

広域の天気傾向を把握するのに便利で、4種類の予測モデルから様々なパターンから天候の検討が可能です。

無料でも十分使えるが、課金するとより細かい時間単位の予測が可能になります。

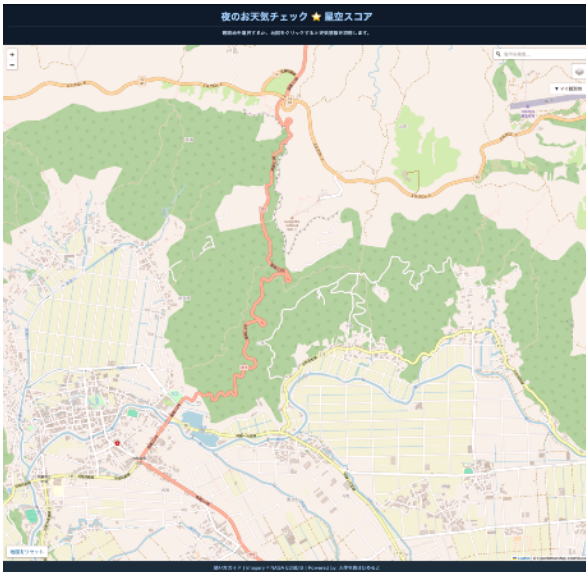
• SCW

スーパーコンピュータが予測する高解像度の気象情報を提供するウェブサイトです。**雲の動き・降水・風**を短時間単位で細かく予測してくれます。Windyほどの見やすさはないものの、**短期～数時間先の精度が非常に高い**ので、当日の撮影計画を立てるのに最適です。

なお、WindyのMSMはSCWとデータの出典が同じなため、似たような結果になりやすいです。

同じ天気予測ツールではありますが、用途が少し異なります。私は大まかな予報はWindy、当日撮影に行くかどうかはSCWで確認しています。

また、最近有志が作った「**星空スコア**」というサイトも登場しました。地図上から予想を確認したい地点を選ぶことで、天気・月齢・湿度など様々な要因から総合的なスコアを算出してくれます。Windyとの連携や観測地の保存もできて結構便利です。



■ 星空スコアの画面

天気予報はあくまで予測です。

晴れ予報でも急に雲が広がることもあれば、曇り予報だった場所が現地に着いたら快晴だった、ということも珍しくありません。

ここぞというタイミングでは、望みが薄くてもとりあえず現地へ足を運んでみることをおすすめします！

季節ごとの星空

星空は季節ごとに見え方や撮ることができる構図が大きく変わります。ここでは、四季それぞれの天の川と代表的な星座について簡単にまとめます。

・ 春の星空（3～5月）

この時期は夏の天の川や印象的な星座は見え始める時間帯が遅いため、撮影時間があまり取れません。また、空気の透明度は比較的安定していますが、地域によっては黄砂の影響を受ける可能性があるので注意してください。



■ アーチ状の夏の天の川（パノラマ撮影）

・ 天の川

夜半過ぎから東の空に**夏の天の川**が昇り始めます。

この時期はまだ高さが低いため、横に寝転んだ天の川や、超広角レンズやパノラマ撮影を使ったアーチ状の構図が狙いやすい季節です。

・ 星座

夜半過ぎから東の空にさそり座が昇り始めます。

夏の天の川に先行する形で昇るため、夏の天の川と絡めた構図が狙いやすいです。

・ 夏の星空（6～9月）

夏になると湿度が高い日が出てきます。このような日では、結露のリスクがあるため、**レンズヒーターを準備しておく**と安心です。また、6月頃からいくつかの流星群が活動を始め、8月には三大流星群の1つがあります。そのため、**流星が見えやすい季節**でもあります。



■ 立ち上る夏の天の川

・ 天の川

この時期は、ほぼ一晩中夏の天の川を撮影できます。夜の早い時間帯に東の空に現れ、時間と共に南へ移動し、夜半過ぎには南中付近で真っ直ぐに立ち上がるような迫力のある姿になります。

9月に入ると、夜半過ぎには西の空へ沈んでしまうため、撮影可能な時間が短くなる点には注意が必要です。

・ 星座

春に引き続き、さそり座が一晩中狙えます。また、夏の大三角形（はくちょう座のデネブ、こと座のベガ、わし座のアルタイル）が天の川の中心から天頂方向に見え、縦構図や広角構図での撮影が楽しめます。

・ ペルセウス座流星群

8月12日～13日頃には、三大流星群のひとつであるペルセウス座流星群が極大を迎えます。月齢や放射点の位置によって観測条件は毎年変わりますが、条件が良ければ1時間に100個以上の流星が流れることもあります。ピーク前後の夜でも比較的多くの流星が見られるため、前後数日間も狙い目です。

なお、流星の多くが**緑色の光跡**を残すことから、「長ネギ」と呼ばれることもあります。

・ 秋の星空（10～11月）

秋は湿気が落ち着き、空気が澄んで星空の透明度が高くなり始める季節です。天の川はほぼ撮影できず目立つ星座も少ないですが、冬に向けてロケハンや撮影練習をするには最適な時期です。



■ 薄明に輝くオリオン座

・ 天の川

9月末ごろから日の出前の東の空に**冬の天の川**が昇り始めます。ただ、冬の天の川は**夏の天の川よりも淡く**、薄明の明るさにも負けてしまうため、狙うなら**10月下旬以降**がおすすめです。

11月になると夜半には南の空に昇り、撮影しやすくなります。

・ 星座

冬の天の川と同じく、9月末ごろから日の出前の東の空に**オリオン座**が昇り始めます。冬の天の川付近に位置するため、**天の川とセットでの撮影**にも向いています。オリオン座を構成する星はどれも明るいため、薄明が始まってでも比較的目立ち、撮影がしやすいのが特徴です。

・ 冬の星空（12～2月）

冬は空気が澄み、星が最もクリアに見える季節です。夜が長いため、じっくりと撮影を楽しむ反面、厳しい寒さが最大の敵になります。

防寒対策とレンズヒーターをしっかりと準備して挑みましょう。



■ 冬の天の川と星座たち

・ 天の川

この時期は一晩中、冬の天の川を撮影することができます。夜の早い時間帯に東の空に現れ、時間とともに南～西へと移動します。

見え方は夏の天の川と似ていますが、**全体的に淡く控えめ**で、派手さはありません。その代わりに、**特徴的で明るい星座や星々**が周囲に多く、とても賑やかな星空が広がります。

2月になると夜半過ぎには西の空に沈んでしまいましたが、**夏の天の川が夜明け前に見え始める**時期でもあります。

・ 星座

冬は個人的に、一年で最も星が目立つ季節です。冬の天の川の付近には、冬の大三角（オリオン座のベテルギウス・こいぬ座のプロキオン・おおいぬ座のシリウス）が輝きます。**さらに、それらを含む冬のダイヤモンド**も見えるため、星空撮影の被写体としてはとても魅力的です。

地上の風景と一緒に冬のダイヤモンドを写すには**超広角レンズ**が必要ですが、星の配置が分かりやすいので初心者でも構図を組みやすいのが特徴です。

・ ふたご座流星群

12月13日～14日には、三大流星群のひとつである**ふたご座流星群**が極大を迎えます。三大流星群の中でも**最も流星数が多く**、条件が良ければ**1時間に120個以上**の流星が流れることもあります。

冬は空気が乾燥して透明度が高く、撮影条件としては最高ですが、**厳しい寒さ**が難点です。極大日の前後もよく流星が出現するため、防寒具とレンズヒーターをしっかりと準備したうえで、極大日前後も狙うと良いでしょう。

・ しぶんぎ座流星群

ふたご座流星群のあと、1月3日～4日には**しぶんぎ座流星群**が極大を迎えます。三大流星群のひとつであり、条件が揃えば**他の流星群に匹敵する数**が流れることもありますが、**ピークが非常に短い**うえに、**年によって当たり外れが大きい**流星群です。

初心者が初めて狙うには少し当たり外れが大きいいため、撮影に行く場合は撮れたらラッキーぐらいの感覚で行くのがおすすめです。

天の川をしっかりと撮影するなら夏と冬がメインとなります。

なので、構図やレンズのテストを春や秋のうちに済ませておきましょう。

慣れてきたら春先の天の川アーチの構図を狙うのもおすすめです！

■ 春 (3～5月)

- ・ **横に寝転んだ天の川やアーチ構図が楽しめる**
- ・ 練習やロケハンに最適

■ 夏 (6～9月)

- ・ 夏の天の川が縦に伸び、ダイナミックな構図が撮れる
- ・ 流星群も多く、**8月にはペルセウス座流星群の極大日**がある

■ 秋 (10～11月)

- ・ 空気が澄み、冬に向けての練習や構図探しにおすすめの季節

■ 冬 (12～2月)

- ・ 透明度が高く、冬の大三角や冬のダイヤモンドなど**明るい星座**が多い
- ・ **12月にはふたご座流星群の極大日**がある
- ・ 1月にはしぶんぎ座流星群の極大日があるが当たり外れが大きい

4.

撮影準備

星

を撮りに行く日を決めたら、あとは撮影の準備するだけです。

「どこで」「何を」撮るのか事前に決めておきましょう。

この章では、現地で慌てないために、忘れずに確認しておきたい準備についてまとめます。



■ 光害の影響を受けた星空

光害について

星を撮るときに、特に気にしなければならない要素のひとつに「光害」があります。

光害とは、街明かりや建物の照明、観光施設のライトアップなどの人工的な光によって夜空が明

るくなり、星空が見えにくくなる現象のことを指します。

星を撮影する際は、光害の有無で撮影難易度大きく変わるため、撮影場所の選択が重要です。

また、光害は「ある・ない」で判断できるものではなく、光害がどれくらい発生しているかには大きな差があります。

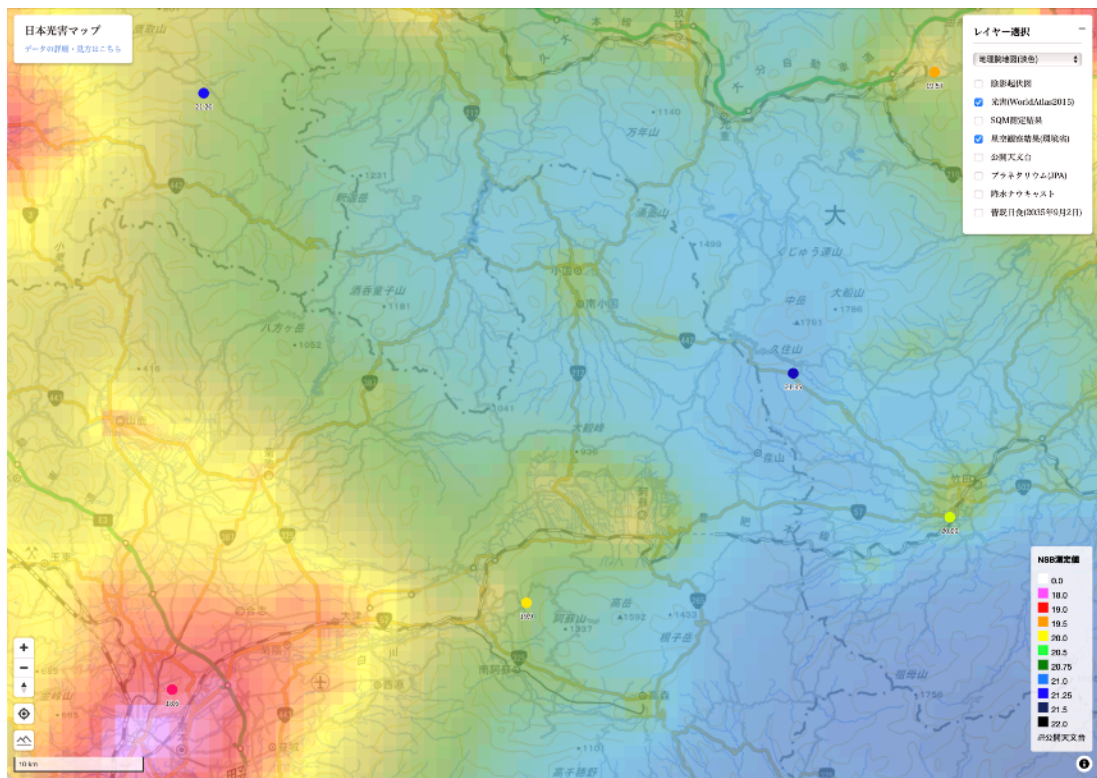
都市部から離れた場所であっても、遠くの街明かりの影響を受けることは珍しくありません。

目で見た印象では暗く感じて、写真には光害の影響が写り込む場合があるため、事前に光害の状況を調べておくことが大切です。

■光害マップを使った調べ方

光害の状況を調べる方法として、最も手軽で分かりやすいのが**光害マップ**です。

光害マップは、人工的な明るさをもとに夜空の暗さを色分けして表示した地図で、撮影地周辺の光害の傾向を視覚的に確認することができます。



■ 出典：日本光害マップ

このサイトは最近見つけた日本国内に特化した光害マップになります。

デジタルカメラによる夜空の明るさの調査データも使用されているので、実際に撮影したときの状態と非常に近い結果になっていると思います。

まずは、光害マップで撮影を予定している場所が**周囲と比べてどの程度暗いのか**、少し移動することでより暗いエリアがないか、といった**相対的な比較**を意識して確認するとよいでしょう。

■光害マップでは分からない光源について

光害マップはあくまで目安であり、実際の撮影環境をすべて反映しているわけではありません。マップ上では暗く見える場所でも、駐車場の照明や遠方の街明かり、施設のライトアップなどがあると、マップの数値より明るく感じる場合があります。

また、特定の場所ならではの光源によって、想定外の影響を受けることもあります。

時間帯や季節、場所によって発生する光源もあるため、光害マップの情報だけで判断しないことが大切です。

実際に撮影を行う中で悩まされた光源の一例

- ・ 漁船の超強烈な白色LED
- ・ ひっきりなしに通る車両のヘッドライト

月と撮影対象の確認

3章「撮影時期・天気」でも説明したように、撮影に行きたい日の月齢と、撮影したい星空がどの方角の空に見えるのかは大事なポイントになります。

詳しい解説は3章で行いましたので、ここでは撮影前に忘れずに確認しておきたいポイントを簡単におさらいします。

■チェックリスト

撮影当日に迷わず行動できるよう、最終チェックとして活用してください。

- ・ 月は撮影時間帯に空に昇っていないか？
- ・ 撮影対象は夜の間に見えるようになるか？
- ・ 撮影対象が空に昇る時間はいつか？
- ・ 何時から何時ぐらいまで撮りたい構図の撮影時間になるのか？

撮影場所とロケハン

撮影場所を探す際は、なんとなく探すのではなく、いくつかの手順に沿って考えていくと、無理のない場所選びができます。

私が普段の撮影で考えてる順番を載せておきますので、参考にしてみてください！

1. どんな構図を撮りたいのか大まかに決める

まずは、どんな場所での星景写真を撮りたいのかを大まかに決めます。

海辺なのか、山なのか、草原なのかといった程度で十分で、細かく決める必要はありません。構図の方向性を先に決めておくことで、撮影場所探しの軸がはっきりします。

2. Googleマップの衛星写真で場所を探す

構図のイメージが固まったら、Googleマップの衛星写真を使って、その構図が狙えそうな場所を探してみましょう。

海岸線の形や山の稜線、開けた場所があるかどうかなどを確認することで、撮影できそうな候補地をいくつか絞り込むことができます。

この段階では、「撮れそうかどうか」を判断する程度で十分です。

3. 光害や作例を確認する

良さそうな場所が見つかったら、次に光害の状況や過去の作例がないかを確認します。

光害マップでは撮影候補地の明るさを確認して、実際に星が撮影可能かどうかを見ます。

過去の作例はSNSや写真投稿サイトで、似た場所で撮影された星景写真がないかを探してみるのが有効です。また、Google Mapに上がっているその場所の写真からどんな前景が撮影可能かを確認するのも有効です。

ただし、SNSなどで見かけた星景写真から同じ構図や条件で撮影できるとは限らない点には注意が必要です。あくまで**ヒントのひとつ**として参考にすると良いと思います。

■アクセスや安全面の確認も忘れずに！

撮影場所として良さそうでも、夜間に安全に行けるかどうかは必ず確認しておきましょう。

駐車場所の有無や立ち入り可能な場所かどうか、さらに足場の状態などを事前に把握しておくことで、撮影当日のトラブルを防ぐことができます。

■ロケハンのススメ

撮影場所の候補が見つかったら、可能であれば**昼間のうちにロケハンを行う**ことをおすすめします。夜になってから初めて訪れるよりも、周囲の状況や現地までの道のりを安全に確認でき、撮影時の不安を減らすことができますよ。

ロケハンでは、主に次のポイントについて確認しておくといいでしょう。

- ・ 夜間に立ち入り可能な場所かどうか

私有地や立入禁止エリアでないか、夜間に問題なく撮影できる場所かを事前に確認します。

- ・ 駐車場所から撮影地点までの距離と移動経路

機材を持って無理なく移動できる距離か、夜間でも迷わず歩けるかを確認します。

- ・ 足場や周囲の安全状況

不安定な足場や段差、転倒の危険がないかを確認し、夜間でも安全に行動できるかを判断します。

- ・ トイレや休憩できる場所の有無

トイレの場所や利用できる時間帯を把握しておくで安心です。

- ・ どの方角の空が開けているか

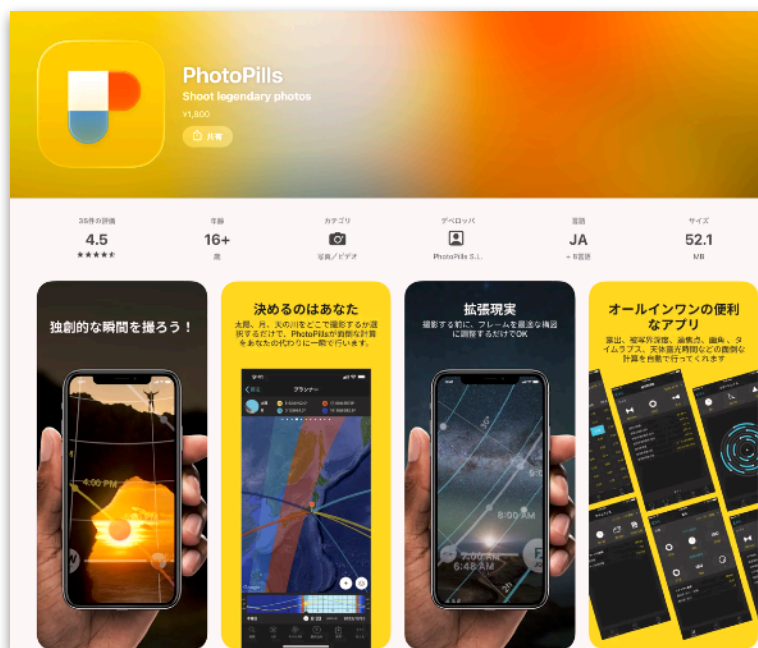
撮影したい星空が見える方向に、山や林、建物などが遮っていないかを実際に確認します。あわせて、街明かりや照明が入りそうな方向も見えておくで安心です。

- ・ どのような星空になるのか

アプリを使って、想定している撮影時間帯に狙っている構図になるのか確認します。

日時に応じて星や天の川の位置を表示してくれるアプリは色々ありますので、1~2つぐらい入れておくで安心です。

私は「PhotoPills」「star walk2」を利用していますが、PhotoPillsは天の川や月の位置だけでなく、その日の薄明やゴールデンアワーの時間帯も表示してくれるため非常に便利です。



様々な機能があって便利なPhotoPills (ただし有料アプリ)